

科目分類	医療のコラボレーション教育			開講学科	全学科
科目番号	学年	配当セメスター	区分	単位数	授業時間数
18045	1	前期	選択	1	30
授業科目名 (英文)	ボランティア活動 (Volunteer Activity)				
担当教員名	齋藤 信夫				
授業の概要及び到達目標					
<p>【概要】 自分の興味や関心に基づいたボランティア実践活動を行うこと。 体験前の学び、体験を通じた気づき、体験の客観化と共有によって社会をより深く多角的に知り、社会性を身につけ、今後の学生生活や職業人としての人生に活かせるものを見出す。</p> <p>【到達目標】 ボランティア実践することによって「ともに生きる」ボランティア活動を理解するとともに、現代社会の課題や背景や取組みについて具体的体験的に理解し、ボランティアの社会性と可能性を考えます。 体験することが目的ではなく、体験からの学びによる共生社会の具現化を目的とします。</p>					
準備学習等					
<p>家族援助活動(祖父母の介護など)とボラバイト以外であればボランティア活動の活動の対象とします。(高校の部活で先輩の指導や子ども会の世話なども)</p> <p>どんな活動をするのかは各自で考え、選び、交渉することになります。身近な地域の情報(「社会福祉便り」、「ボランティアセンターニュース」など)をこまめに読んだり、関心ある領域、課題について調べることによって、それらに取り組んでいるボランティアやNPOが見つかります。ボランティア論の4回目ではインターネットを使ってのアクセスについて学習します</p> <p>大切なことは単にボランティアを体験することではなく、どんな課題に取り組む、何をするのか、ひれが社会的にどんな意味をもたらすのか、活動の中で考えることが肝要です。 相談は随時メールなどで対応します。気軽に相談してください、サポートします。</p>					
成績評価の方法	活動計画書(30%)と活動報告書(40%)と報告会レポート(30%)を評価する 事前と事後の授業の欠席は単位を認めない				
テキスト	なし 「ボランティア活動はじめの一步」のプリントを配布します				
参考図書	ボランティア活動先に関連する図書・資料については授業及びメールで随時紹介します				
備考	相談や質問は「ボランティア論」「ボランティア活動」の授業終了後やメールなどでも対応するので、遠慮なく声掛けしてください。 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連については、別途明示している各学科の履修系統図をご確認ください。				

授 業 計 画

活動前の集中講義

1. ボランティア活動の基礎知識①ボランティアする側とされる側について/安全対策
2. ボランティア活動の基礎知識②マナーと活動のための留意事項
3. 活動計画の作成に向けて

どんな活動を（どこで、何をするのか）、どのような形態・時間ですか

※活動計画を作成（計画書が評価対象となります）

前期終了日までに BOX に提出

（活動先や活動内容の変更は認めますが、変更理由を報告書裏面に記入すること）

ボランティア活動実践（夏季休暇中または休日、授業の空き時間など）

20 時間以上 30 時間程度 出来れば体験で終わることなく継続的に続けて欲しい

3 日以上は活動すること 一人でしても、仲間と一緒にでもかまいません

ボラバイト(アルバイトの要素を含む活動)と家族介護等は対象外とします

趣味や特技を活用した活動や苦手克服のための活動なども可能

〈参考〉病院や福祉施設での活動が多いが、母子父子家庭の児童への学習支援/日本語指導/食育の指導助手/援農作業/障害児者へのスポーツ指導補助/ジャズフェスティバルの運営/サマーキャンプの支援-調理や野外活動/孤児院や学校建設-海外で/植林/被災地での支援 などなど

※実習予定先や海外でのボランティア活動を計画する場合は教務部に相談すること

実践の中で目に見えるもの、見えないものから社会の実相と自己を再発見

※活動を終えての活動報告書を提出します（レポートが評価対象となります）

提出期限は夏休み明けの第一週

※保険について 皆さんが加入している大学の保険が適用されるが、

「ボランティア保険」にも加入することを推奨します

活動終了後の集中講義

活動報告者(グループ)は活動計画書をもとに 8/上旬に指名します(メールで連絡)

自己の活動実践の振り返り/仲間の活動からの気づきや学び. 発見

1. ボランティア活動体験のふりかえり
 2. 「ボランティア論」「ボランティア活動」のまとめとしてのレポート作成
- ※発表とミニレポートが評価に加算されます